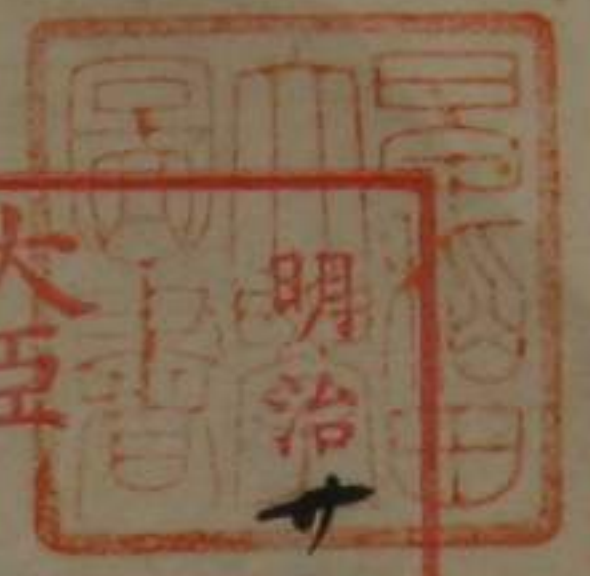


414
A 300



明治十一年九月九日譯了

次官
大臣
翻譯局長
翻譯局次長

天正十一年
閏侯爵邸寄贈

1914

昨年九月井ノ伯外務大臣ノ職ヲ辭シ總理大臣臨時坎
職ヲ兼任シテヨリ以來當時已ニ報道セシ如ク衆人皆
遠カラス坎職ヲ誌カン者ハ海軍中將榎本子ヲラスンハ
本林子ヲラント豫想セシナリ然ル處數日前曾テ八百七十

卜
答
省



三年ヨリ千八百八十一年マテ大藏大臣タリ而シテ近日マテ政府
及對黨中唯一個、有力な政黨、首領多シ大隈伯
ヲシテ此外務大臣、職ニ就カシメタルハ全國一般、豫想外
ニ出タル、ミナラス衆人皆驚愕、外アラカキ事ナリ然リト雖モ
衆人驚愕、原因ハ大隈伯、出テ、外務大臣タリシ事
ニアラス是レ数月来多少其事、或ハハキ所ナラント
冥々理ニ人、信セシ所ニシテ伯、此職ニ適否、論ニ至リ
テモ誰アリテ掛念スル者ナシ何トナレハ伯、英邁ナル能ク

日本近時、真家俊豁達ナル政事家中ニシテ一步モ讓
ル所ナケレハナリ然リ而シテ人、具新任ヲ見テ吃驚セシ所以ハ
國人皆深ク伯、理財ニ大名アルヲ知レハナリ夫レ伯ハ大藏省、
長官トナリテ之前後八年間財政困難、衝ニ當リテ
能ク國帑ヲ整理シ伯ノ職ヲ去リシ時ニ其紙幣減少ノ
方法未タ実績ヲ表スルニ至ラサリト雖モ此ノ道ニ於テ
伯、宏才アルハ國人皆信シテ疑ハル所ナリ之ニ因テ一朝
伯、再ヒ廟堂ニ入ル、風説アルヤ、其実ヲ見ル、日ニハ

多少財政ニ縁故見處ニ出ツベシトハ日及レ自ラ各人ノ
期セシ所ナリ然リ而シテ伯ニシテ人王ク異リ外務長官
ニ出ルヲ見テ衆人始メテ伯ノ剛毅明断智略之ヲ屢々
財政ニ施シテ得タル所ノモノヲ以テ之ヲ外交ニ施ス其揆一
ナリヲ知ルニ至レリ

封建ノ制瘳絶以降改進ノ言ハ日本各政黨ハ大言諾
トナリ全國ノ志望皆改進ノ一点ニ在リ而シテ各政黨ノ
差違ハ其安全ノ區域内ニ在リテ進歩ノ度如何ニアルノ

ニ夫レ現時代ハ改進ノ空ニ氣日本ニ充滿スルノ時ナリ此際
特異ニ守旧主義ノ政黨ヲ設クルモ誰レカ之ヲ顧ミル
者アラシヤ政府自体モ亦改進ノ高度ニ在リ苟モ之ヲ
知ラント欲セハ其二十一年間ノ宏業偉績ヲ見ルヘシ
一トシテ大^改革ナラサルニナレ之ヲ取テ試ミ歐洲普通ノ政事
主義ニ照ラサハ其大ニ無謀急激ナリト断定スヘキ
モノ多カラシ夫レ新ヲ以テ旧ニ代フルニ此ノ如キ急進一掃
ノ手段ヲ以テスルハ如何ナル理論トモモ豫メ其安全ヲ

保スヘカラス其実効ヲ以テ終ルカニ其其謀ヲ怒スヘキニ改
之
府ノ進歩状ノ如ク急進ナリト云モ其班列ヲ脱シテ野ニ
出ル者ハ大率其旧同僚ヨリモ進歩ノ急進ナラシテ欲スル
或^{假令}非^レハ政府ノ改進主義ニ関セサル議論ニ於テ其意見ヲ
異ニシテ去ルノ後自ラ政事海底ニ沈没シテ復タ顕ハサルカ
不^レハカレハ内閣施政ノ方向ヨリモ一層思^ハ激タル主義ヲ唱道す
スルカニ者其ニヲ撰フヲ見ルナリ此中後者ヲ取リシ者ハ板
垣伯ニシテ伯ハ千八百七十三年政府ノ朝鮮ニ對スル改略ノ

媾和主義ナルヲ悦ビシテ袂ヲ掛テ去リ日ナラスシテ自由
黨ノ領袖トナリ此自由黨ハ即チ是レ一時帝國ノ政事
社會ニ西朝タリシモノナリ而シテ其前者ヲ取リシハ即チ大
隈伯ナリ千八百八十一年伯ノ内閣ヲ去リシ所以ハ職^ニ具自
由ヲ好ムノ盛ニナルニアリ伯ノ意思蓋シ數年ヲ出スシテ日
本ニ英國風ノ憲法ヲ設ケトスルニ在リ此時ニ當リテ
財政上ノ議論沸騰シ遂ニ政事ニ不和ヲ醸セルノ事
情アラサリセハ憲法上ノ議論ノ調和ヲ得ルニ敢テ難カ

外務省

ラカリシナラン 其事ハ免モ角伯、内閣ヲ退キシ其同僚伯、試ミント欲スル憲法上、意見ヲ容レサリシ起
因セリトハ是レ外ニ表レタル理由ナリ 而シテ 数月後伯ハ改進黨、首領ト仰 ナレ 自由改進黨、兩黨共ニ三年以前其改進黨組織ヲ解 キレト雖モ 改進黨ハ自由黨ニ異ナリテ尔来尚其團結ヲ維持シ改進黨タル実力ヲ振ヒシ一具解黨以前ニ異ナラス其黨員多クハ是レ実力学力氣力備アリ而シテ其品行資格共ニ

公衆ノ尊敬ヲ招クニ足ル者ナリ其運動モ亦温和適度ヲ得テ未タ曾テ一回モ暴挙ヲ試ミタルナシ大隈伯ハ掛冠以来公衆面前ニ其名ヲ彰ハサンヨリモ寧ロ口隱棲ヲ欲スルモ、如ク然リ而シテ古ノ執心閉ヲ避ケテ静閑ヲ樂ミ其餘財ヲ散シテ慈善事業ヲ起シ孤手以テ高等教育ノ一學校ヲ支持シ且ツ昨年其叙爵時、特典ヲ蒙ルニ方リテ之ニ伴フ、恩賜金三万圓ヲ集手ケテ之ヲ其學校ノ資金トセリ

外務省

從來政府、反對ニ立ケシ西政黨ノ中、實力、要素
及ヒ施設、機能ヲ徹然ト具備セルモ、即ケ改進
黨憲、一現内閣、ハ、一アラス、改進黨中ヨリ
出テ、之ニ代ルヲ得ヘシ、及チ自由黨ヲ顧ミレハ、大改
分任スヘキ人物ニ乏シ況ヤ、其本体各種異様ノ分子
ヨリ集合シテ自ラ治ル能ハサル、形跡著明ナク、是數
年前板垣伯ノ其首領ノ地位ヲ辭セシ所以ナリ之ヨリ
以來該黨ハ瓦解ノ存様トナレリ殘類、及チ時ニ或ハ活動

ノ形態ヲ現ハス、一ナキニシモ、非スト、虫モ其政黨
タルノ面目ハ先ツ時埋滅セリト云フモ可ナリ、然レ而シテ
大隈伯ノ内閣ニ復セルヤ、以テ政府ト改進黨間ノ
融和、一証トナスニ足ルヘク、之ニ因テ内閣ノ前途ニ横
ハル大障礙ヲ拂ヒ、又内閣ヲシテ民心代表ノ名ニ
負カラフシムルヲ得タリ
是ニ由テ之ヲ觀レ、現内閣ハ所謂聯合内閣
ナリ而シテ衆目ノ向フ所、故新組織ニ集マレリ人々

外務省

相會スレハ必ス問フテ曰ク此内閣、新變動ハ双方
孰レカ其主義ヲ持ケタルニ非ルカ曰ク執政機
関ハ新動力ノ為メニ運轉ヲ変スルナキカト
然リト雖モ其實際此、如キ揣摩ヲ容ルニ所
ナレ現時ノ事物ハ大隈伯、獨ニ内閣ヲ忖リシ
時、如クナラス當時未タ帝國議院召集ノ
期日モ定マラス又國憲制定ノ準備モ其完成何
ノ日ニ在ルカ知ヘカラサリシナリ然リト雖モ如令是ヨリ

二年、後國會開クヘリ憲法立ツキナリ如何ナル
急激改進黨ト雖モ是ヨリモ尚速カナラシク欲
スル能ハス假令衆人ノ信スル如ク憲法ノ綱目ニ関シテ
大隈伯ハ内閣ノ所見ヨリモ寛大ナルモノヲ欲ストス
ルモ其相与ニ歸スル所日本人ニ自治ノ權ヲ
与フルニアリテハ即テ一ナリ但七年以前ニ在テ大隈
伯ハ此大政變ヲ直ク行ハントセシモ當時政府ハ
重大ノ困難ニミナラス其ニ危険ノ之ニ伴

外務省

アリトシテ此政策ヲ退ケ而シテ之ニ至ルニ宜シク漸ク
以テシ前後左右ヲ顧ミテ進ムヘシトナセリ此ノ如ク意
見ノ異ナリシモ数年間経験ヲ重ク判断ノ熟シク
後ハ今日ノ時キニ處スルニ方リテ其意見ヲ和熟スル
為メ孰レヨリモ甚シク歩ヲ譲ルノ必要ナカルヘシ今マ
日本政府ハ獨逸憲法ノ靴型ニ則トリ之ヲ以テ
其國民ニ政事上改進ノ第一着歩ヲ示ヘント欲スルニ
アリト公言セリ大隈伯ノ此事業ニ同意協力

又、其目的ノ歸ユル所同一ナルニ因リ
スル所ニ是則チ其終ニ歸スル所伯期スル所トシテ
伯ハ一臂肩ノ力ヲ添ヘテ以テ此事業ヲ策進セント欲ス
カ故ナリ
日本歴史上ノ危急ナル時代ニ際シテ、如ク政府其力ヲ得
シハ是レ日本ノ為メニ幸福ヲ祈ル者、悉ク慶賀スル所ナリ
然リト雖モ其日本ノ進歩速急廣大ニ見テ常ニ諫
然トシテ言フニ心ル、所以ハ帝ニ其急歩ノ萬國史上未ダ曾テ
其先例ヲ見サルカ為メナラス抑モ日本歴史ヲ熟読スルハ自愛

慮スキモ、深遠重大ナルモノカヲ相心フニ封建制度
ヲ廢シテ新タニ日本ノ政事及ヒ社會ノ組織ヲ開設セント
企圖セシ者ハ其事業上ヨリ直タニ障礙ヲ受ケタル一
ナリ又之ヲ豫期セサリシナリ然リトモ其操作ニ施モシ動力
愈々進ニテ愈々烈シク之ヲ制御御スルニ確乎不致ノ手ヲ以テセ
サルハ勢遂ニ制スヘカウサルニ至ルハ之レ其必ル所ナリ何トナレハ
日本人民中古來ヨリ社會黨ニ類スルノ主義現存セル
一ヲ知レハナリ古ハ封建ノ古ニ於テ諸侯既ニ此傾向アルヲ

安ホシ之ヲ防ク途ヲ講スル一ニシテ是ラスト雖モ其中
嚴法ヲ設ケテ土地買賣ヲ制禁セシハ是レ其著明ナル
モノナリ若シ此禁制アツサリセハ改変ヲ欲スルモノハ第一ニ故
ナク人民ニ土地ヲ平分スル一ヲ名トシテ事ヲ成手ケシナルヘシ
尚ホ其他種々ノ方法ヲ設ケテ財産平分論ヲ主張セシ一
屢次アリ今其一例ヲ採手クハ當ロテ此黨ノ者相集リテ
金錢ヲ貸スル一ヲ謀リ而シテ總令返済ヲ怠ル者
アリトモ之ヲ官衙ニ訴テ請求セサルヘト明約シ以テ其

貴黨議ヲ擴張セントセシ者アリ之ヲ要スルニ貧富平均論ハ
古來日本人民ヲ聳動スル所ノ日取モ有力ナル論套ナリ
夫レ千八百六十九年三百ノ諸侯ニシテ日本ノ版圖ヲ割有セシ
モ、故チ其封土兵力寡^{其弊}ヲ奉還セル一
事之ヲ歐洲人ヨリ見レハ是レ王政復古以後遊馬ク堪ヘ
タル事跡中ノ最モ甚シキモノナリ而シテ日本人ヨリ之ヲ見ル
片ハ薩主ノ所為皆正義公道ナラサルナシ爾後諸侯ノ
歳入ヲ改定支給スルニ及ニテ其方法ノ頗ル專斷ニ出ツル

モノアリトモモ政府ニ能ク民心ノ帰向スル所ヲ知ルカ故ニ是
モ亦彼財を度平分論ノ一方ニ外ナラサレハ其處置或ハ不當
ナルモ其結果ノ美ヲ以テ憚ル所ナク敢テ斷行セシナリ更ニ
一例ヲ示サンニ彼ノ借地權、如キハ數百年来日本ニ慣
行セル所即チ其日取モ不覺裕ナルモノナリ借地人ハ其借地
料ヲ納ムル外復タ地主ニ對シテ他ノ義務アラズ播種耕
作肥料培養等ニ皆借地人ノ為メ所ニ任セリ之ヲ要スル
維新後土地賣買ノ制限解カレタトモ田制尚ホ

卜
務
省

金玉滿家ヲシテ大土地ヲ有セシメサルモノアリ之ニ因テ未ク
廣大ナル土地ヲ所有スルモノアルヲ聞カス而シテ又財産分
有ノ不平均泰西諸國ニ於ルカ如ク甚シキヲ見ス是故ニ
日本上流社會、治計ニ之ヲ歐美ニ比スルニ極メテ質素
單々間ナルモノナリ然ルニ今日民間、政事論者、口ヲ開ケ、
官吏、俸給過當ニシテ且奢侈一般人民ニ之ヲ比スレハ
言ニ忍ビザンモノアリト云ヘリ

前段ノ各項ヲ悉ク酌スレハ且鑑戒火ヲ見ルヨリモ明ナリ夫レ

今ノ日本、急要ハ鞭策ニアラスシテ韁轡ニアリ且一動
機一タヒユキセハ且駢行急劇ニシテ復タ止ムヘカラス山岳
恐レテ之ヲ慎マサルヘケンヤ若シ日本、変化早晚其極
度ニ達スヘキハ止ムル能ハザル、勢アリト雖モ今一時ニ自治權
ヲ放トスル、政策ヲ行ナント欲セハ國家ニ取モ重大ナル
困難ヲ惹起スヘキハ智者ヲ俟テ後ニ知ラサルナリ
近時ノ事相ヲ察スルニ大ニ前論ノ正確ナルヲ證スヘキモノ
アリ夫レ近來學問、基礎一變ニシテ人ノ尊信スル所異

ト
務
省

ナリ是故ニ數百年来ノ旧株ヲ守ル者、勢力減弱
シテ少壯自尊風甚ク恐ルヘキモノヲ見ルニ至ルヘシトハ是レ
識者ノ竊クニ憂ヘシ所ナリ此把自愛虚ナラスシテ其實跡ヲ
見ルニ至リシハ去秋ノ文政論置書々タリシ時ナリ論者ノ首
唱タリ且其多數ヲ占メシ者ハ皆所謂進学生ナリ此黨ノ
輩傲然トシテ執政大臣ノ門戸ヲ擁シ嘯々タル亂暴論ヲ
領白ノ老政事家ニ呈シ以テ國家内外ノ政務ヲ議シ
怏然トシテ自ラ且其嘆息ヲ省ミサルナリ三四百ノ少年輩各

地方ヨリ出テ、帝都ニ集マリ且郷閭ヲ辭スル時哲言テ
曰ク我レ若シ國民ノ為メニ言論集會ノ權利ヲ求メ且其
教科書中ヨリ拔萃セル行政上ノ改革ヲ果タサシムルニ生テ
復ク墳墓ノ地ニ歸ラヌトスレバ此、如キ、輩輩ニ進ニテ自ラ
其力ヲ計ラス退ヒテ自ラ其分ヲ守ルヲ知ラサルモノト云フヘシ
此、如キ輕躁ノ少年焉ニシ能ク其目的ヲ達スルヲ得ニヤ
皆空シク東京ニ滞留シテ帰期ナキヲ恨ムニ然リ而シテ
日本人ノ常性トシテ最後ノ決心猛烈過激ニ涉リ此少壯尋

ト
省

常ノ不正手段モ其切ヲ夫々タルニ足ラサルヲ知り終ニ暗殺放
火ヲ企ツルニ至レリ政府ノ之ヲ處スルヤ恰モ猛虎ノ瘦狗ヲ
撫スルカ如ク軍ニ保安條例ヲ弁シテ敢言吏ニ命シ熱狂
少年ヲシテ故郷ニ帰リ學志ニ就カシメタリ此少年輩ト共ニ
浪去ヲ命セラレタル長者ナキニシモアラスト雖モ其間接若ハ
直接ニ事ヲ執リテ少年ト共ニ狂奔セルハ其志操ニ於テ
未熟ナル所アルニ由レリ政府此處置ヲ行フニ方リテ一時
古論野言々カリシモ其狂愚政論ヲ鎮傳スル方法寛

仁ニシテ而モ其効カニ著シキ之ニ勝ルモノナレトハ是レ後ニ至リテ
明カナリシ事績ナリ然リト雖モ此一事変ハ是レ新學
風ヲ學フニ及ンテ少壯輩旧時人ヲ鉗制セシ所以ノ道ヲ
脱セシヨリ馴致セルモノニシテ未系ヨリ偶然ニ非ス也鑑ミテ
懼レサルヘケンヤ此如キ新思想心ノ有害ナルモノ萌芽シテ
旧來國中ニ胚胎セル社會黨主義ト結合スルヲ以テ
國家ノ大患ナリ日本ノ執政者豈此情勢ヲ詳ニカシ
其恐ルヘキヲ察スセシテ可ナランヤ其日本將來ノ憲

外務省

法、竹藪型と撰ハフニ方リテ之ヲ英國ニ取ニシテ之ヲ獨逸ニ
取リシハ良ニ以ヘアルナリ惟フニ英國、憲法ハ理論上美ハ
則チ美ナリト雖モ國勢未タ熟セカルニ先ケ之ヲ外國ニ入ル
時ハ英國人種ト雖モ尚其弊ニ堪ヘカル所、害毒日取モ
甚シキモノヲ併セ入ルニ思キカルヘシ然レ則チ其獨逸ニ取リシハ
其危ルモ害ナル所ヲ察示シ之ニ處スルヲ道ヲ得タリト云フ

ヘシ